

「電気のふるさと」電源地域ニュース」では、電源地域のさまざまな取り組みを紹介しています。このコーナーでは、読者の皆様から寄せいただいたご意見・ご要望を積極的に誌面に反映させて参りますので、皆様の地域で取り組んでおられる事業や施策を「電気のふるさと」編集室までとどしとどしお寄せください。巻末にご覧いただけます。ハガキをご利用ください。編集室一同心よりお待ちしております。

宮城

サンマ獲る人、食べる人。
町を挙げてのサンマの祭典「おながわ秋刀魚収穫祭」
宮城県 女川町

「海と緑と魚のまち、明日のエネルギーを担う町」女川町は、宮城県の東端、牡鹿半島の基部に位置しています。

女川湾は、水深が深く、波静かな天与の良港として全国に知られ、世界三大漁場の一つとして名高い「金華山沖」を控え、古くから水産、観光の町として発展を続けてきました。

本町の水産業の核となる女川町地方卸売市場(魚市場)は、平成18年の全国主要港水揚げ高ランキングの第13位(数量約8万7千トン、水揚げ金額は、約75億円で全国第22位)と全国屈指の水揚げ港となっており、春には、アミヤコオナゴ、メロード(イカナゴの別称)等に始まり、沿岸域の低層水温が高くなるにつれてアイナメやカレイ、メバル等の磯魚に加え、養殖ギンザケやカツオなどの暖水系の回遊魚も顔を揃えます。秋から冬にかけては、サンマなどのほか、冷水系のタラ、サケなどが水揚げされてきます。

ギンザケとサンマは、本魚市場の水揚げ二大魚種で、どちらも水揚げ金額では20億円(平成18年/ギンザケ19億5千万円、サンマ19億3千万円)に迫り、実に女川魚市場全体の50%を占めています。生産高



行列をつくるサンマの串焼きコーナー

お問い合わせ先
女川町 企画課
TEL 0225-54-3131

日本一のギンザケとともに、魚市場水揚げの中核を担うサンマは、平成18年、本州第1位の栄誉に輝きました。

その全国に知られる女川のサンマの豊漁祈願と消費者の皆さんへの感謝を込めて、毎年秋に魚市場周辺を会場に開催されるのが「おながわ秋刀魚収穫祭(女川魚市場買受人協同組合主催)」です。今年も、10月7日に記念すべき第10回目が開催され、全国から来場される皆さんに、女川のサンマを思う存分楽しんでもらおうと、新鮮なサンマ約30トンを用意。無料で振る舞われるサンマの炭火焼や、串焼きコーナーには長蛇の列ができていました。その他、恒例となったサンマの格安販売やサンマのつかみ取りなども行われ、「サンマ尽くし」に浸れます。また、特設ステージでは、地元小中学校の児童生徒による踊りや女川潮騒太鼓が披露されたほか、地元バンドが秋刀魚収穫祭のために制作したテーマソング「サンマDEサンバ」などが演奏され、軽快なサンバのリズムが会場いっぱいに広がりました。心地よいリズムに合わせ地元の小中学生が踊りだすと、思わず飛び入り参加する人も。サンマを焼き上げる香ばしい匂いと、祭り好きな「女川人」の心意気を一日中堪能できるお祭りです。

女川町では、この秋刀魚収穫祭のほか、春にはキンザケをテーマにしたイベントが「マリパル女川」を会場に、また、夏には、女川港をメインに繰り広げられる「女川みなと祭り」など、1年を通して様々な楽しいイベントが盛りだくさん。どうぞ皆さんも「海と緑と魚のまち、明日のエネルギーを担う町」女川町の旬な祭りにお出かけください。心からお待ちしております。

青森

大間超マグロ祭り
青森県 大間町

青森県下北半島の最北部、本州最北端に位置する大間町。目の前には津軽海峡が広がり、雄大な北海道の山々の景色が一望できます。また、マグロの一本釣りで知られ、今では、「マグロ」と言えば大間、「大間」と言えばマグロ、として有名になっています。



たくさんの観光客を前にマグロ解体ショー

平成12年にNHK朝の連続ドラマ小説「私の青空」の舞台となりマグロの一本釣りが脚光を浴びました。その年に大間町商工会は、町のキーマンを集めて「大間の観光ビジョン」の策定を行います。そのまま事業としては一旦終了してしまいます。しかし、策定に関わったメンバーの中から、「ビジョンを行動に移さなければ意味がない」との声が上がり、有志が集まり「大間活性化委員会(通称・やるど会)」が結成されました。

実は大間町では、10月の下旬に2日間ほど、太平洋から朝日が昇り、日本海に夕日が沈む日がありますが、この風景が見られる場所は、全国でも数カ所しかありません。この珍しい風景と旬の大間マグロを活用し、「やるど会」は平成13年に第1回「大間超マグロ祭り」を開催しました。イベントではなく、「集客キャンペーン」とし、補助金等に頼らず、自分たちの力で次の試みにつ

なげていくことを目標としており、今では、秋の一大イベントとして、例年1万人以上が大間町を訪れています。

第1回目に開催したマグロ祭りは実験的なもので、マグロ解体ショーは行いましたが、即売会がありませんでした。ところが観光客のニーズは「大間

マグロ」を買いたい、食べたいということで、観光客からは「やるど会」でなく、「やねど会」「やらないど会」と皮肉を言われたそうです。そして、2回目からは、1回目

の失敗を生かし、マグロの即売会を行い、今では年々イベントとしての知名度が上がり、観光客も増加しています。しかしながら、マグロの確保、イベント場所、駐車場スペース、人員の確保など問題も発生してきています。今後、イベントとして続けるためには、これだけの観光客を受け入れる体制の整備が急務となっています。

7回目となる今年の「大間超マグロ祭り」は、10月20日と21日の2日間開催され、マグロの解体ショー&即売会、マグロ漁ウォッチング、海鮮バーベキュー、特産品即売会などを行い、来場者の楽しむ姿が多く見られました。運がよければ、「マグロの水揚げ」のシーンも見られますので、皆さんも「マグロの町おおま」を訪れ、ぜひ「大間マグロ」を味わってみてはいかがでしょうか。

お問い合わせ先
大間町活性化委員会(通称:やるど会)
事務局:大間町商工会
TEL 0175-37-2233

いきいき電源地域

地域振興に取り組んでいる
電源地域の元気な姿を紹介します